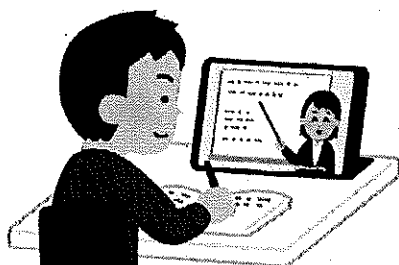




令和7年度

学習の手引き

2年生



津市立東橋内中学校

目次

はじめに	 1
1. 中学校の勉強について	 1
2. 家庭学習、家庭学習習慣について	 2
3. 学習評価について	 3
4. 勉強の仕方、ポイント、アドバイス	 5
5. なぜ勉強する必要があるのか	 6
6. 東橋内中学校独自のインターネットを活用した授業について ..	6
特別活動について、特別の教科道徳について	 7
シラバス	
○国語科	 8
○社会科	 10
○数学科	 12
○理科	 14
○外国語科	 16
○技術・家庭科(技術分野)	 19
○技術・家庭科(家庭分野)	 21
○保健体育科	 23
○音楽科	 25
○美術科	 27
○特別支援教育について	 31
○国際教室について	 32
おわりに	

0. はじめに

中学校の学習では、生徒が将来自立した社会人として自分の人生を主体的に歩いていくための基礎となる「学力」*1を育みます。その中、文部科学省より2021年度4月から改訂学習指導要領が全国一斉に実施されることになりました。この改訂により、今までと学習内容と学習評価が大きく変わりました。また、本校では、生徒の潜在的な可能性を見つけ育み、未来を自分の力で切り拓いていける生徒の育成を目指しております。

このことから、改めて東橋内中学校の学習活動、学習評価について保護者の皆様や生徒の皆さんと共有し、生徒一人ひとりにあった適切な指導、評価をしていきたいという思いで本書を作成いたしました。

*1 「学力」とは、教科の知識や未知の問題に対して継続的に解決する力等のことです。

1. 中学校の勉強について

中学校の教科は、国語、数学、社会、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語の9教科10科目となります。小学校よりも科目数が多くなり、内容もとても難しくなります。小学校に比べて進むスピードも速くなり、授業だけでは追いつかなくなります。そのため、家庭での「予習・復習」が大切です。例えば、「法隆寺」を見学する場合、何も学習せずに観に行くと、ただの古い建物としか思いません。しかし、前もって調べ学習をしておくと、「世界最古の木造建築物」や「聖徳太子が建築したこと」など事前に知識を入れて実際に見ることができるので、見方が変わってきます。これが、「予習」のすごさです。予習では、次回どのような内容を学ぶのか教科書などを通じて調べることで、予習しないで授業に臨むときとは異なる気持ちで授業に向かうことができます。

また、授業を受けた後、今回学んだことを自分なりに整理する時間として復習を行います。この授業では、どのようなことを学び、何が大切だったのかを行うのが復習です。この「予習・復習」を行うことで、「自分をコントロールする力（自己調整力、メタ認知）」を育てることができます。

家庭学習は自分との勝負になります。家庭では、ゲームをする時間などが自由にありますが、勉強する気持ちを持って取り組むことにより、自分自身をコントロールする力を身につけることができます。そのためにも毎日家庭学習を行う習慣を身につけることが大切となってきます。

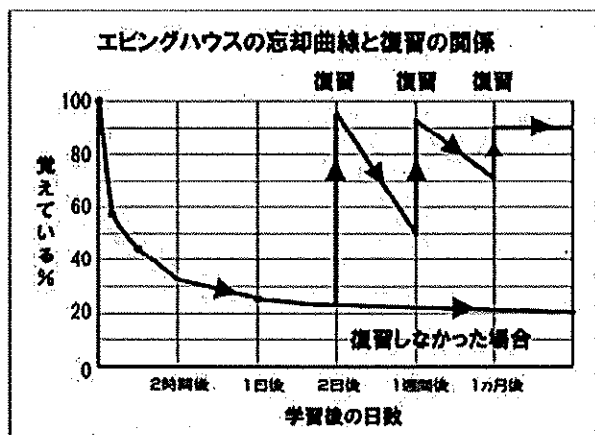
2. 家庭学習、家庭学習習慣について

学力を身につけるためには、「主体的に学ぶ力」が必要です。この力は、みなさん一人ひとりの学習計画に基づき、継続的に学習することによって身につけていく力です。そして、授業と家庭学習が一体となって自然と身につけていくものだと考えています。また、毎年中学3年生を対象に行われている全国学力学習状況調査によると、生活習慣と家庭学習習慣は生徒の正答率に影響していることが調査から分かってきました。このようなことから、子どもの学力を付けさせようとしたときに家庭学習やその習慣は不可欠なものとなっています。

Q.なぜ家庭学習をしないといけないのですか？

⇒ A.人は「忘れるのが当たり前」だからです。

- 家でもう一度勉強することで、忘れることを防げます。
- テスト前に一気に思い出すのではなく、毎日コツコツ思い出していく方が、学力UPの効果は上がります。



<保護者の方へ>

家庭学習の習慣は、お子さまの生活リズムを整えることにも効果を発揮します。

「毎日、〇時～〇時までは家庭学習の時間」と、家庭で設定することをお勧めします。



寝ることも大切



依存から脱けだそう

3. 評価について

令和3年度から学習指導要領が改訂され評価の観点が「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」

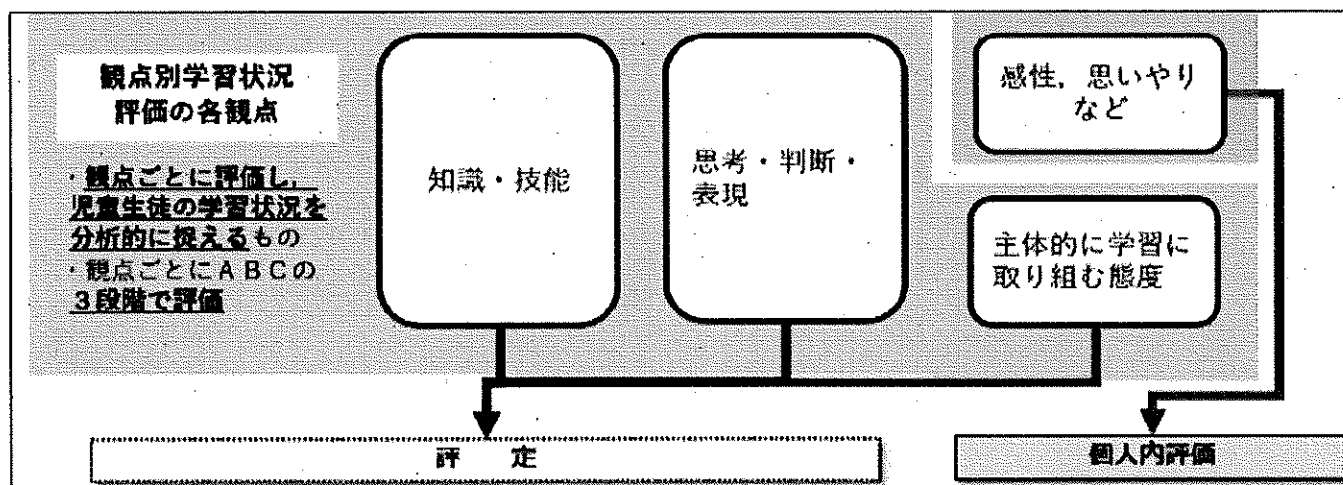
「主体的に学ぶ力」の3観点となりました。

「知識・技能」では、各教科等における知識及び技能の習得状況进行评估します。

「思考力・判断力・表現力」では、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか进行评估します。

「主体的に学ぶ力」では、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意志的な側面进行评估します。また、それぞれの項目に対してA、B、Cの評価をします。

評価のイメージ図

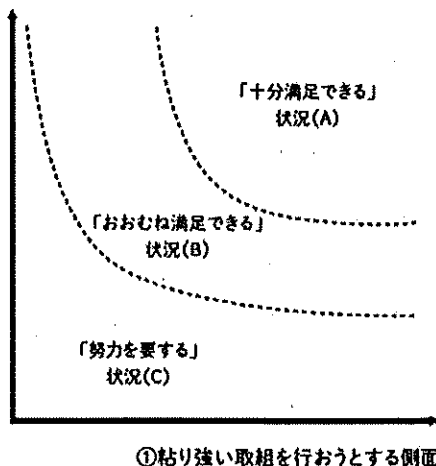


「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

① 粘り強い取り組みを行おうとする側面は、目標達成までやり抜く力を指します。

② 自らの学習を調整しようとする側面は、学習の目的を達成するために工夫することを指します。

② 自らの学習を調整しようとする側面



* 文部科学省国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」

具体的な評価の一覧【通知表に載るもの】

観点別学習状況評価 【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】	評 定
A:「十分満足できる」状況と判断されるもの	5:「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	4:「十分満足できる」状況と判断されるもの
C:「努力を要する」状況と判断されるもの	3:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
	2:「努力を要する」状況と判断されるもの
	1:「一層努力を要する」状況と判断されるもの

具体的な評価の方法（あくまでも 1 例です）＊学習の内容によりパーセンテージは変わることがあります。

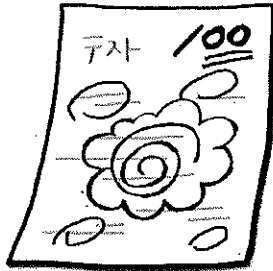
観点別学習状況の評価		学習の実現状況		評 定	
A	十分満足できる	A [○] (5点)	90%以上	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高い
B	おおむね満足できる	A (4点)	70～90%	4	十分満足できる
C	努力を要する	B (3点)	50～70%	3	おおむね満足できる
		C [○] (2点)	30～50%	2	努力を要する
		C (1点)	～30%	1	一層努力を要する

3 観点の合計得点	15 点 14 点	13 点 12 点 11 点	10 点 9 点 8 点	7 点 6 点 5 点	4 点 3 点
評 定	5	4	3	2	1

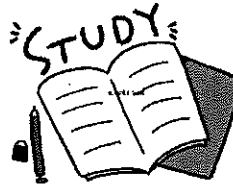
4. 勉強の仕方、ポイント、アドバイス

勉強の仕方に悩む生徒や保護者の方が多いように感じます。そこで、効果的な勉強方法について3つ紹介します。！
つても参考になればと思います。

その1 ^{がくしゅうせい か} 学習成果 = ^{なに} 何を × ^{いよく} 意欲



=



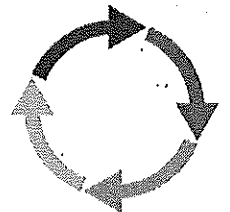
×



最初に言えることは、勉強方法や勉強の仕方だけにとらわれていても成果は出ません。まず、あなたが、どんな気持ちで勉強に取り組むのが大切です。例えば、よい例としては、次のテストで100点を絶対に取りたい。前回のテストよりも10点伸ばしたい。授業をもっともっと理解したい。などが考えられます。逆に、めんどくさい、やらされている、早く終わりたい、などのマイナスの気持ちを持っていると結果もマイナスになってしまいます。

その2 ^{こと} 3つの異なるワークを1回するより、^{かい} 同じワークを3回 ^{おな} 解く ^{かいと}

勉強が苦手だけれども、少しでもできるようになりたい！と思う人はぜひこのことを実践してみてください。逆になぜこのことをしないのに勉強がわからないと言っているのかがいつも不思議に思っています。1冊の問題集を1回ただけでは、絶対に覚えることはできません。間違った問題を何回も解くことで理解が深まります。大切なことは何回も同じものに会うこと。勉強も同じことが言えますよ。



その3 ^{べんきょうじ か ん} 勉強時間より ^{べんきょうりょう お} 勉強量で ^き 終わりを決める

とにかくすぐに勉強に取り掛かるのもいいですが、まず、今日勉強する見通し(予定)を立てましょう。例えば、「この問題ができるまでやろう」や「15ページできるまでやろう」「ここまで終わらなかったら寝ない」という意志固めを最初にすることです。逆に、「〇〇時までやろう」というのは、とにかく時間さえてしまえば終わってしまいますので、椅子に座っていたら時間がきて終わってしまいます。そうすると力はいっていないけど勉強した気持ちだけになってしまい、結果何の問題も解けなくなってしまいます。また、そうなってくるとだんだん勉強をさせられていると自分で認識してしまいます。常に、時間ではなく、勉強量で終わりを決めましょう。



5. なぜ勉強する必要があるのか

べんきょう い み じぶん ひょうげん 勉強をする意味①＝自分らしく表現するため

あなたの人生は、あなた自身が組み立てて進んでいく道筋です。このことは、「自己実現」といい、あなたが将来やりたいこと、なりたい職業に近づくことをいいます。勉強することは、あなたがあなたらしい人生を送るためには、必要なことです。

例えば、「〇〇の仕事に就きたい」と言っているだけで、その仕事に必要な力が身につけていなかったとしたらどうでしょう？いつまでたっても、その職業には就けません。つまり、あなたが勉強しないと、「自己実現」できないのです。

べんきょう い み こうきしん しこうりょく ひょうげんりょく こうじょう 勉強をする意味②＝好奇心や思考力、表現力の向上

勉強をする意味①でも、書いたように、「将来のために、自己実現のために、良い成績を取る」ということはあります。しかし、「テストで良い点数を取るためだけに勉強をする」ではありません。中学校で様々な教科を学ぶことには大きな意味があります。

(ア) 自分の興味関心がどこにあるのかを、自分で分析したり、その好奇心を自分で伸ばしたりする。

(イ) 課題を解決するための様々な考え方を学ぶことで、思考力を高める。

(ウ) 自分が学んだことや考えたことを相手に分かりやすく伝えることで、表現力を身につける。

これらのように、中学校の間に様々な教科に出会うことで、テストで点数を取る以上に大切なことを身につけることができます。

6 東橋内中学校独自のインターネットを活用した授業について

・一人1台タブレットが導入され、授業内でも調べ学習やタブレットを使用した授業が多くなります。各授業での使用方法につきましては各教科担任から指示があると思いますので、その指示を聞いて使用してください。またそれに伴って、「ロイロノート」というアプリを利用します。課題提出や友人同士でのまとめ作業など様々な用途に使用できるアプリとなっております。
・e-Learning ポータルサイトでは、津市教育委員会からでている動画など自宅学習で使用できるサイトが上がっています。ぜひ、活用して自宅学習を充実するものにしてもらいたいと思います。

ログイン方法は授業内でお知らせしたIDとパスワードをサイト内に打ち、ログインしてください。

IDとパスワードを忘れそうな人は下のところに書いておいてください。

ID: _____

パスワード: _____

特別活動について

特別活動とは、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質能力を育成することを目指す教育です。

【具体的な教育活動】

特別活動		
学級活動	生徒会活動	学校行事
・学級や学校の生活上の問題解決 ・学級内の役割の自覚 ・一人一人のキャリア形成	・生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 ・学校行事への協力 ・ボランティア活動などの社会参画	・入学式、始業式、終業式、終了式卒業式などの儀式 ・文化祭 ・体育祭 ・修学旅行 ・職場体験学習 ・ボランティア活動

道徳教育について

道徳教育は、よりよく生きるために、以下の4つの内容を学習し、人間としての生き方についての考えを深めることが目的です。

道徳教育の内容(年間35時間)
- A 主として自分自身に関すること - B 主として人との関わりに関すること - C 主として集団や社会との関わりに関すること - D 主として生命や自然崇高なものとの関わりに関すること

国語 2年生 シラバス

1 国語の目標

社会生活における人との関わりの中で、国語を正しく使って伝え合う力を高め、考えたり想像したりする力をつける。

2 国語を学ぶ意義

- ・生活の中にある言葉や文章を理解できるようになる。
- ・相手の心情（気持ち）を分かろうとする心を持てるようになる。

3 評価の観点について

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識：日本の言葉の特徴や使い方（漢字・文法・慣用句・故事成語・ことわざなど）について理解することができる。 技能：話や文章に書かれている情報を正確に理解することができる。	A「話すこと・聞くこと」において、スピーチなどの活動で、今までの学習を生かして自分の考えを他者に分かりやすく発信することができる。また、他者の考えを大切にして、相手が何を伝えたいのかを聞き取ることができる。 B「書くこと」において、作文や記述などの活動で、習った漢字や正しい文法を使って、他者に伝わりやすい文章を書くことができる。 C「読むこと」において、文学的文章では、さまざまな作品を読み、それぞれの人物の心情（気持ち）や作品の主題（テーマ）をとらえ、自分の経験と照らし合わせたり、他者の意見を聞くことで自分の読みや考えを深めることができる。説明的文章では、文章の構成や筆者の主張を読み取り、筆者の物事の見方を参考にしながら新たな見方・考え方を持ち、自分の考えの幅を広げることができる。	日本の言語文化を大切にし、他者の意見を尊重しながらも自分の思いや考えを伝えようとしている。

4 主体的に学習に取り組む態度について

- ① 粘り強さ 例：課題に対して、あきらめずに取り組むこと
例：自分の考えをさらに深めるために、友達に聞いたり、共に考えたりすること
- ② 国語を学ぶ意義 例：学習したことを実際の生活に生かそうとしていること
- ③ 自らの学習の調整 例：課題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていること

5 国語の勉強アドバイス

- ① 学校で勉強した部分は、復習としてそのつどワークを自分で進めましょう。
- ② 漢字の学習は、予習としてどんどん自分で進めましょう。
- ③ 普段から、読書の時間を大切にしましょう。

国語 2年生 学習計画と評価規準について

【学習の年間計画】

学期	月	学習内容 (単元)
1 学 期	4	◆オリエンテーション ○見えないだけ(知・技) ・単語をどう分ける？(知・技) ・敬語(知・技)
	5	○アイスプラネット(思・判・表C) ・魅力的な提案をしよう(思・判・表A) ○枕草子(思・判・表C) ・熟語の構成/漢字に親しもう1(知・技)
	6	○クマゼミ増加の原因を探る(思・判・表C) ○情報を整理して伝えよう(思・判・表A) ・漢字に親しもう2(知・技) ○短歌に親しむ/短歌を味わう(思・判・表B・C)
	7	○言葉の力(思・判・表C) ・類義語・対義語・多義語(知・技) ○メディアの特徴を生かして情報を集めよう(思・判・表B・C) ・読書を楽しむ/翻訳作品を読み比べよう(思・判・表B・C)
2 学 期	9	○ヒューマノイド(思・判・表C) ○字のない葉書(思・判・表C) ・同じ訓・同じ音をもつ漢字(知・技) ・漢字に親しもう3(知・技)
	10	○モアイは語る―地球の未来(思・判・表C) ・適切な根拠を選んで書こう(思・判・表B) ○月夜の浜辺(思・判・表C) ○源氏と平家/平家物語(知・技)
	11	○扇の的―「平家物語」から(思・判・表C) ○仁和寺にある法師―「徒然草」から(思・判・表B・C)
	12	○漢詩の風景(思・判・表C) ○君は「最後の晩餐」を知っているか/「最後の晩餐」の新しさ(思・判・表C)
3 学 期	1	・走る。走らない。走ろうよ。(知・技) ○立場を尊重して話し合おう(思・判・表A) ・漢字に親しもう4(知・技)
	2	○走れメロス(思・判・表B・C) ・漢字に親しもう5(知・技) ・一字違いで大違い(知・技) ○描写を工夫して書こう(思・判・表A)
	3	○鍵(思・判・表C) ・送り仮名/話し言葉と書き言葉(知・技) ・国語の学びを振り返ろう(思・判・表A・B)

学習のねらい
■詩 「見えないだけ」「月夜の浜辺」「鍵」 ・速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 ・詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由と共にまとめている。 ・詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。 ・自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。 ■小説 「アイスプラネット」「ヒューマノイド」「走れメロス」 ・場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 ・表現に着目して登場人物の人柄や心情を読み取ろうとしながら作品を読んでいる。 ・前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。 ■説明文・随筆・論説・評論 「クマゼミ増加の原因を探る」「短歌に親しむ」「言葉の力」「字のない葉書」「君は「最後の晩餐」を知っているか」「モアイは語る―地球の未来」 ・話や文章の構成や展開について理解を深めている。 ・文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。 ■古文・漢文 「枕草子」「平家物語」「徒然草」「漢詩の風景」 ・現代語訳や語注を手掛かりに古文を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。 ・漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。 ■漢字・文法・言葉 ・用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。 ・助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。 ・話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。

社会科2年生シラバス

1 社会科の目標

広い視野で物事を見て、平和で民主的な世の中を築き上げるための知識・技術の基礎を身に付ける。

2 社会科を学ぶことの意義

- ・よりよい社会を築き上げるのは自分であるという自覚を持てる。
- ・自分を大切に、他の人や異なる文化を大切にする心が持てる。

3 評価の観点について

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識： 我が国の国土と歴史や現代社会の政治、経済、国際関係に関する事柄を理解する。 技能： 社会的事象について調べ、まとめることができる。	思考： 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察することができる。 判断： 社会に見られる課題を把握し、解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断することができる。 表現： 自分がわかったことや、疑問点などを友達や先生に相手意識をもって、わかりやすく伝えることができる。	世の中の様々な事柄について進んで学習し、よりよい社会の実現に関わろうとしている。

4 主体的に学習に取り組む態度について

- ①粘り強さ(例):社会科の課題を粘り強く考え、あきらめずに解決しようと取り組むこと。
(例):自分の考えを更に深めるために、友達の意見も聞き、一緒に答えを導き出すこと。
- ②自らの学習の調整(例):振り返りカードを使って、課題解決の過程を振り返り、評価・改善をしようとしていること。
- ③社会科を学ぶ意義(例):社会科で学んだ事柄を次の学習や実際の生活に生かそうとしていること。

5 社会科の勉強アドバイス

- ①授業で学んだことをワーク(問題集)を使って何度も復習しましょう。
- ②暗記するだけでなく、資料などを見て、課題に取り組みましょう。
- ③覚えたことを、簡単な言葉に置き換え、自分の言葉で説明できるようにしましょう。

社会科 2年生 学習計画と評価基準について

節	学習時期	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本の諸地域	4月～10月	観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。また、地形図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。	地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。	地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
近世の日本	11月	ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣の統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解している。	ヨーロッパ人來航の背景とその影響からの課題、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係からの課題、また、武将や豪商などの生活文化の展開からの課題を見だし、多面的・多角的に考察し、表現している。	ヨーロッパ人來航の背景とその影響からの課題、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係からの課題、また、武将や豪商などの生活文化の展開からの課題を主体的に追究、解決しようとしている。
近世の日本（2）	11月～12月	江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などを基に、幕府と藩による支配が確立した。産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、文化が生まれたことを理解している。	近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
近世の日本（3）	12月	社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行きづまりを見せたことを理解している。	社会の変動や欧米諸国の接近による課題、幕府の政治改革による課題、新しい学問・思想の動きによる課題を見出し、多面的・多角的に考察し、表現している。	社会の変動や欧米諸国の接近に関する課題、幕府の政治改革に関する課題、新しい学問・思想の動きに関する課題を主体的に追究、解決しようとしている。
開国と近代日本の歩み	1月～3月	欧米諸国が近代社会を成立させて、アジアへ進出したこと、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したこと、立憲制国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したこと及び我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。	事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の様子と、近代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	近代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
具体的な評価の方法		授業の様子（発言、ペアワーク、発表）、単元テスト・定期テストなど	授業の様子（発言、ペアワーク、発表）、単元のまとめ、プレゼンテーション、単元テスト、定期テストなど	授業の様子（発言、ペアワーク、発表）、振り返りカード、単元のまとめなど

数学科2年生シラバス

1 数学科の目標

数学的活動を通して、数学的に考える力をつけることを目指す

2 数学を学ぶ意義

生活の中にある数字や式の意味を理解できるようになる。
物事を順序だてて考え、大切なことを見失わないようになる。

3 評価の観点について

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識：数量や図形などについて決まりを理解することができる。 技能：問題を数字や式に表して、計算することができる。	思考：課題を解決するために、比べたり、決まりを見つけたり等することができる。 判断：今までの学習の中から今の課題を解決する手段を見つけることができる。 表現：自分がわかったことや、疑問点などを友達や先生にわかりやすく伝えることができる。	数学の楽しさや良さを生活や学習に生かそうとしたり、学習を振り返って次の勉強をより良くしようとしている。

4 主体的に学習に取り組む態度について

- ① 粘り強さ 例：数学の課題を粘り強く考え、あきらめずに解決しようとする取り組みこと
例：友達の意見を聞き、自分の考えを深めること
- ② 数学を学ぶ意義 例：数学を実際の生活や学習に生かそうとしていること
- ③ 自らの学習の調整 例：課題解決の過程を振り返って評価・改善をしようとしていること

5 数学の勉強アドバイス

- ① 学校で学習した内容は、オクラで復習しましょう。
- ② 文章のある問題は絵や図を書いたりして解くようにしましょう。

数学科 2年生 学習計画と評価基準について

節	学習時期	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
式の計算 1章	4月～6月下旬	数量の関係を文字を用いた式で表したり、簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。	式の計算について1年で学んだことに関連づけて生活や学習に生かすことができる。	文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
連立方程式 2章	6月下旬～7月中旬	連立方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解することができる。簡単な連立方程式を解くことができる。	連立方程式について一元一次方程式で学んだことに関連づけて生活や学習に生かすことができる。	連立方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
一次関数 3章	7月中旬～9月	一次関数について理解することができる。二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。	一次関数について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
図形の調べ方 4章	10月～11月中旬	平面図形の性質を理解することができる。証明の必要性和意味及びその方法について理解することができる。	図形の調べ方について学んだことを論理的に説明することができる。	平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
図形の性質と証明 5章	11月中旬～12月	直角三角形の合同条件について理解することができる。証明の必要性和意味及びその方法について理解することができる。	図形の性質と証明について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	三角形や平行四辺形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
場合の数と確率 6章	1月～2月中旬	場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解することができる。確率を求めることができる。	場合の数と確率について学んだことを学習に生かすことができる。	確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
箱ひげ図とデータの活用 7章	2月中旬～3月	箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味を理解することができる。データを整理し、箱ひげ図で表すことができる。	箱ひげ図とデータの活用について学んだことを学習に生かすことができる。	箱ひげ図や四分位範囲を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
方法 具体的な評価の		・定期テスト・小テスト・授業での発言・ふりかえり等の提出物	・定期テスト・小テスト・授業での発言・ふりかえり・テスト直し等の提出物	・授業中の発言・ふりかえり・テスト直し等の提出物

理科 2 年生シラバス

1 理科の目標

自然をはじめとする様々な現象に関わりながら、見通しをもって観察・実験などの活動を行い、それらを通して科学的思考を身に付け、自分たちの関わる世界を理解しながら生きるために必要な力を身に付ける。

2 理科を学ぶ意義

- ・身の回りにある事柄や現象について学ぶことで理解力が増すとともに適切に判断し行動することができるようになる。
- ・科学的に物事を考えられるようになる。
- ・探求する能力・態度を身につけることで、主体的かつ創造的に生きていく力をつけることができるようになる。

3 評価の観点について

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識：自然や様々な現象について理解する。 技能：科学的に施行するために必要な観察や実験に関する基本的な技能を身に付ける。	思考：課題に対して、科学的な根拠をもとに考えることができる。 判断：学習で身につけた様々な実験方法や分析方法の中から、課題を解決するための正しい方法を選ぶことができる。 表現：観察・実験を通してわかったことや疑問点などを分かりやすく伝えることができる。	身の回りの現象や様々な事柄に進んで関わり、科学的に考えようとしている。

4 主体的に学習に取り組む態度について

- | | |
|------------|---|
| ① 継続的な取り組み | 例：課題に対して考え、自分なりに取り組みをやり遂げられるようになる。
例：分からないことを人に聞いたり、自分なりに意見を持ったりなどして努力できる。 |
| ② 理科を学ぶ意欲 | 例：生活場面で応用したり、理解したり、知識を判断に活かしたりできるようになる。 |
| ③ 自らの学習の調整 | 例：課題や目標にどれだけ到達できたか反省・評価をすることができ、反省を今後に生かすことができるようになる。 |

理科 2 年生 学習計画と評価基準について

領域	学習時期	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学変化と 原子・分子	4月 ～ 6月 中旬	化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化と質量の保存、質量変化の規則性についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質の成り立ちや物質の成り立ちについて、モデルを使った実習、観察、実験などを行うとともに、見通しをもって解決する方法を立案し、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈できる。化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	物質の成り立ちに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
生物の体の つくりと はたらき	6月 中旬 ～ 10月 下旬	生物の体のつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物のつくりやはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の体のしくみやつくり、はたらきについて見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行いその結果を分析して解釈し、刺激と反応についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど科学的に探究している	生物の体のつくりとはたらきのうち、生命を維持するはたらきに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
地球の大気と 天気の変化	10月 下旬 ～ 12月 下旬	気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	気象の変化や原理について見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、気象現象についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど科学的に探究している。	気象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
電流と その利用	1月 ～ 3月	電流・磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	電流と磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	電流と磁界に関する事物・現象に進んで関わり見通しをもったりふり返ったりするなど科学的に探究しようとしている。